

# SSKS

## 社会福祉法人結の会

# オフィス クローバー

o f f i c e c l o v e r



20周年  
特集号

# ニュース

2016年

さる  
申が雪山を駆け上がる 冬号



## 目 次

（オフィス クローバーのページ）

大量封入作業／テープおこし作業／消火器点検・看板清掃作業……………P 2

共同バザール／忘年会……………P 3

《20周年特集》……………P 4～9

（社会福祉法人結の会のページ）

20周年記念事業／理事会・評議員会報告……………P 10

《読み物》『心の病との付き合い方』……………P 11

投稿作品／主な予定／編集後記……………P 12

～ 次号は2016年4月に発行予定です。お楽しみに！！ ～



## オフィスクローバーのページ



一般就労にまだ自信を持ってない精神障害者を対象に、働く場を提供し、能力向上などの必要な訓練を行うところです。

### 大量封入作業

11月になると毎年始まる作業のひとつにNHK旧友会様より頂く封入作業があります。10種類以上の部材を丁合し、封入から封緘まで作業毎にグループを組み、細かくチェックを入れながら行います。普段からどの作業も丁寧、正確を心掛けていますが、どんな作業よりも緊張感があり、皆で一斉に目標に向かってやっていく感じがあります。この作業を終えると「師走も近いなあ」と毎年感じています。(N. H)



みんなで丁合、封入中!

### テープおこし作業

戸塚地区協議会の中の「福祉・生活分科会」様、「まちづくり分科会」様よりテープおこしの作業を受託しました。「災害時の地域と福祉支援～“みんな”で助かろう!!～」という講演が録音された音声データを聞き、wordを使って文字におこしていきました。2時間弱の講演内容を5人の利用者で手分けをし、作業を進めました。聞き直しをするときに巻き戻しが上手くいかず、同じ所を何度もループしてしまい、担当した約20分の文字おこしをやるのに数日かかり苦労しました。今後もこのような仕事をいただけるならば、出来れば専用のソフトを活用するなどの工夫をして、もうちょっと効率よく進めていきたいと思いました。(Raptor)



音声データを聞きながら

### 消火器点検・看板清掃作業

(財)新宿区勤労者・仕事支援センター様より受託し、利用者2名職員1名で新宿区内にある消火器の点検(毎月)や路上喫煙禁止等の看板清掃(3ヶ月毎)を行っています。消火器点検は、消火器本体を確認して不具合があるかどうか、一度に36本位を確認して回ります。看板清掃もコース別で一度に6~7本、各看板を清掃します。看板は汚れが少ないエリアと多いエリアがはっきりしています。ひどい時はマジックで落書きされたりして汚れを落とすのに苦労します。消火器点検は宝探しみたいで楽しいです。(Y. W)



洗剤で看板清掃中

## 共同バザール

平成27年12月9、10日に第10回新宿区内障害者福祉施設共同バザールおよび障害者作品展が開催されました。例年通り手漉きハガキ、メッセージカード、布製品等を販売しました。当日は利用者にも売り子として参加してもらいました。今年度は利用者が手漉きハガキをたくさん作ってくれたので去年より売上げが良かったです。（赤津）

商品が売れていくのを見ていて嬉しかった。「いらっしゃいませ」を言うのが楽しかった。レジは大変そうだった。（H.S）

ステンシルの事を知ってもらえて嬉しかった。（NoName）



たくさんの品物を出しました



ステンシルの実演にて

## 忘年会

私は今回で2回目になる忘年会係を担い、司会を務めました。これまでになくたくさんの利用者さんが参加してくれて良かったです。係の仕事は前日までに「誰が司会をやるか？」「ビンゴの景品を何にするか？」を話し合ったり、買い出しに行ったりしました。皆さんに思っていた以上に楽しんでいただけたようで、係として幸せでした。（今年で30才）

来年の目標は…

最後はじゃんけん勝負♪





## ◀ 20周年特集 ▶

平成27年は、オフィス クローバーが平成7年に「クラブハウス・ストローク」という名称で精神障害者共同作業所として開設してから20年目の記念すべき年でした。秋号に引き続き『20周年特集号』と題し、いつもよりページ数を増やしてお届けいたします。今号の特集では、12月に発行した「20周年記念誌“みんなで築いた20年”」の一部をご紹介します。オフィス クローバーに関わる皆様の『思い』が綴られています。

### 「継続は力なり」

泉 美智子

（社会福祉法人結の会 理事長）

「10年一昔」といわれます。平成18年に「社会福祉法人結の会」が10周年の記念誌を発行してからすでに10年。時の経つ早さに唖然とする思いです。しかし、その足跡をたどれば、やはり10年一昔です。

10周年記念号での私の結びの言葉は職員の方々ががんばっておられるから「今後の大躍進があることは間違いありません」でした。そしてこの言葉が裏切られることはなく、この10年で予想以上の大躍進を遂げています。当時4名だった職員は現在常勤7名、非常勤2名。登録されているメンバーの方は60名ほどで、1日あたりの通所平均人数は30名。仕事の数も格段に増えて、いつ伺っても活気ある「仕事場」の雰囲気があります。

それもこれも、精神障害者に暖かい気持ちで仕事を出してくださっている方々、運営に要する費用を拠出されている行政、そして暖かい目で見守ってくださっている地域社会の方々のおかげです。今後もよろしく願います。

10周年記念にあたって思うことに

「精神障害者に対する社会の目を変え、働ける場や仕事の確保に努力しよう」を掲げていますが、「精神障害者に対する社会の目を変える」は日本人にとって、人間にとって永遠の課題です。精神障害には誰もがなり得ることで、誰もが避けて通れないものなのに、自分とは無関係と切り捨てる人々。特に日本人に多くみられる姿です。海外諸国にはもう少し暖かい目があるように思えます。これをこれからの10年間の課題としてがんばりたいと思います。

「継続は力なり」ともいわれます。そう、結の会は発展しながら継続しなければなりません。孫子の代まで、もっと先まで、ここを利用して、少しでも生きがいを感じていただける人々のために「継続」しなければなりません。そして、それは職員の方々の努力を継続してくれる人がいるかぎり継続できることを信じております。



## 「地元の方々に育てられて」

金子 鮎子

（NPO 法人ストローク会／社会福祉法人結の会 評議員／クラブハウス・ストローク創設者）

ストローク・グループの歩み	1972年 5月	日曜サロンの前身 MHSC がスタート
	1989年 3月	精神障害のある人と共に働く会社として（株）ストローク設立（2012年休眠）
	同年 4月	ストローク会発足（NPO ストローク会の前身）
	1995年 6月	クラブハウス・ストローク活動開始
	同年 9月	事務所を高田馬場4丁目の岡ビルに
	1996年 4月	新宿区の補助を受けBランクの小規模作業所として、クラブハウス・ストローク正式にスタート
	2001年 4月	オフィス クローバーと名称変更
	2002年 10月	社会福祉法人結の会オフィス クローバーと名称変更
	2012年 4月	就労継続支援A型事業所ストローク・サービス開所

このような経緯を経て「オフィス クローバー」は街の中に生まれ、20歳になりました。当時はまだ精神障害のある人達が街中で暮らすというのは、中々すんなり認められない時代でしたが、地元、高田馬場4丁目の地域の方々に20歳になるまで育てていただきました。

もともと私たちの場合は施設の中に閉じこもるのではなく、障害はあっても、ハンデを抱えていても世の中のお世話になるだけでなく、社会の中の一員として、普通に暮らしたい。

そのためには、いろいろなことを学び身につけ、受け入れられるようになりたい。出来ることなら、世の中でお役に立てるようになり、何らかの役割を担えないかということでした。

入所したては体調が整わなかったり、外に出て行く自信がなかったりと時間がかかることはあっても、仲間や職員との話し合いや繋がりを通じて、安心していられる場が広がり、地域社会の中での活動に広がってきていることは本当にありがたいことです。ご近所のオジサマ・オバサマ方が参加して下さる地域パソコン教室もありまし

たね。

この20年間で、オフィス クローバーは社会の中でいろいろな仕事にかかわり、今では、言い出しっぺの私も知らない沢山の仕事をしているに違いありません。

今年3月、私が入っている地元、戸塚地域の福祉・生活分科会の活動報告の冊子を「カラーで予算内で、納期に間に合うように作りたい」という話が持ち上がった時、それならオフィス クローバーがお役に立てないかと地元の委員さんに提案、採用して頂いたことがありました。結果は「いい報告書が出来た」と地元の皆さんが喜んでくださいました。オフィス クローバーのPRになったことは言うまでもありません。

戸塚地域では毎月“とつかふえ”という誰でも参加できるお茶飲み会がありますので、今年のオフィス クローバーのクリスマスコンサートのチラシを“とつかふえ”の皆さんにお配りしようかと考えていますが、いかがでしょうか。

そして、地元の新しいお客様にもコンサートを楽しんで頂きながら、結の会の活動がより身近に感じられる機会になればうれしいですね。

## 「進化する オフィス クローバー！」

米田 直子

（社会福祉法人復生あせび会 Abeam/  
オフィス クローバー 元施設長）

“オフィス クローバー、設立 20 周年”  
おめでとうございます！時の流れのはやさを  
しみじみ感じております。

平成 7 年……開所前の『クラブハウス・  
ストローク』を見学させていただいたこと  
がありました。机も椅子もまだ何も置かれ  
ていない広々としたオフィスタイプのフロ  
ア。新しい活動の始まりを目の当たりにし、  
とてもわくわくしたことを覚えています。

不思議な巡り合わせで、平成 11 年からそ  
の事業に携わる機会をいただきました。

その頃の『クラブハウス・ストローク』  
では、月に一度、昼食作り、お菓子作りの  
プログラムがありました。小さく狭い給湯  
室でしたが、とても工夫して行われていて、  
アットホームな雰囲気が印象に残っていま  
す。

振り返れば、今日までの 20 年間、オフィ  
ス クローバーは様々な転換期を迎えてき  
たことと思います。

私が在職中に携わったことの一つ目は、  
『クラブハウス・ストローク』から『オフ  
イス クローバー』へと名称を変更したこと  
です。クラブハウスモデルをめざしてい  
くか、作業所なのか、どのような活動を展  
開していくか、職員は考え、悩みました。利  
用者主体の活動を大切に……その思いを繋  
ぎながら、働くこと、仕事に積極的に取り  
組むことを意識して、名称を変えることに  
しました。

そして、二つ目。社会福祉法人格取得要

件の緩和をきっかけに、オフィス クロー  
バーは、事業の継続、安定した運営をめざ  
し、平成 14 年度に社会福祉法人化するこ  
とになりました。

当時、法人化を進める中で、慣れない書  
類と向き合い、何度も都庁や理事長はじめ  
役員の方々のもとへ足を運びました。不思議  
とそれらが大変だったこととは記憶に  
残っていません。むしろ、課題だったこと  
は法人の組織作り、役員を決めていくこと  
でした。

それまで、細々と作業所活動を行ってき  
たため、地域との接点が乏しく、自分達の  
活動を理解していただく機会を持たずに  
きてしまいました。法人化することで、よ  
うやく、近隣の方々と交流を持つようにな  
りました。ご紹介いただき、理事、評議員  
として新しく出会った方々は、ユニークで  
温かい人ばかり。この出会いがあり、活動  
が更に広がっていきました。

人と人との出会いを大切にし、連携して  
いくこと、協力していくこと。利用者の希  
望を実現していくこと＝実を結ぶこと…  
…それらの思いを「社会福祉法人結の会」  
の名に託していきました。

20 周年を迎えたオフィス クローバー  
は、常に進化している！と感じています。  
移転あり、新しい作業あり……。そんな取  
り組みに私自身も隣の文京区でいつも刺  
激を受け、励まされています。これからも  
期待しております。



## 「オフィス クローバーを引き継いで」

友利 幸湖

（オフィス クローバー 施設長）

心持や境遇に見舞われるか未知なのだとい  
う当たり前のことを再確認する仕事でもあ  
りました。

20 年の間には、クラブハウス・ストロ  
ークとしての開所、施設の改名、法人化、引  
越し、福祉サービスへの法内化、東日本  
大震災、再び引越し、事業の再編と様々  
なことがありました。利用者の皆さんは私  
たちの説明を辛抱強く聞き、理解し、力を  
発揮して下さいました。

しかし精神障害者が経験する様々な生き  
づらさを十分に補い合えるほど、人も法律  
も完璧ではありません。オフィス クローバ  
ーでの毎日は迷いと新しい試みの連続とい  
えます。

利用者自身も気づかない『思い』が何か  
を探すことは、各々の個性や気持ちと向き  
あう作業であり、それぞれ適正量の時間が  
必要です。力を引き出しながら安全を保て  
るように見守る……。着地点は見つからな  
いかもしれません。でもその営みと日々の  
努力が利用者の自己肯定感へつながった  
らと願っているのです。

オフィス クローバーに通う方たちは、何  
が大切なのか、何が必要なのか、何が有効  
で何がいらぬのか、何が嬉しく楽しいの  
か、何が苦しく不安なのか、こんなことを  
考えながら歩いていこうと 10 年前の記念誌  
に書いた私は、やっぱり今も同じことを考  
えながら、そして時々猫や鉄道、家族のこ  
と等にも思いを馳せながら通勤の道を急い  
でいます。

## 「二十年を振り返って」

佐々木 淑行

（オフィス クローバー利用者 平成11年入所）

クラブハウス・ストローク時代より現在に至る迄の歴史を振り返るに当たり、今、こうして様々な事共が脳裏を過ぎます。それは病の中での喘ぎからの脱出、その最中からの一つの出発で有った様に想えます。法整備のなされてなかった時代の中、社会の中で蹂躪されて来たわたしたち、——そう、わたしたちは、その証人であるのです。そうした中に於いて、病を持つという二重の苦しみの中を生きるということの裏で、“労働する”と云う点の重要性を教えてくれる場、即ち、——オフィス クローバーとは、何よりも、こうした社会の中で生き抜くわたしたちに、“病を持ちつつ、生きる”という大きな誇りを与えてくれる場であるのです。病みつつ生活するわたしたちに絶えず優しい言葉を懸け、生きる契機を与えて下さった職員、関係者の皆様には、心より感謝の言葉を表したいと思います。

途絶えがちで有った通所初期の時代より、絶えず支えられ、ともに考えつつ、こうして、今身体的に安定した状態になる迄の過程を思い出すに付け、過ぎ去って来た歲月の中、経験して来た所内作業の数々をとおして、わたしたちは一つの希望というものを持つことが出来たという点です。

例えば、先ず通所する、という出発点より始まった、様々なプログラム参加、そして、初期のSSTに始まる基礎的生活訓練、そして、ついに開始することの出来た、看板清掃、情報誌のポスティングを始めとする、所内外作業への参加。社

会に於ける障害者福祉政策の推進に伴う、様々な使用サービスの利用の拡大化、こうした背景の中、遂にこの私にも機会が巡って来ました。それは、あの雪の日に職員のMさんと共に早朝の中を衝いて始まった、出版社内の小作業、そして、更に、老人福祉施設での本格的清掃作業、こうした諸々の作業は、私に、病みつつも確固とした誇りを持って、社会の裏で生きるという、大きなメダルを齎して呉れました。

そしてこうして今、オフィス クローバーのニュースレターの編集作業への詩の投稿、文章の投稿を通して、わたしは、人生に於ける大きな「地歩」を得たように想います。こうして歩んで来た道程を振り返って見るに、わたしがオフィス クローバーでの活動を通して得た何よりも貴いもの、それは何でしょうか——

それは、何よりも、病を持ちつつも、「生きる誇り」を持つ自我となる事、この一点に要約されると想います。そしていつの時代をとおしてもわたしたち人間が決して喪ってはならないもの——それこそ、社会に於いて「誇りを持ちつつ生きる」という事に他ならないからです。



## 「オフィス クローバーへの思い」

J.T

（オフィス クローバー利用者 平成17年入所）

良くは覚えていませんが、44歳の頃金子先生の立ち上げたオフィスクローバーに入りました。初めてお付き合いした“Kさん”という方に気に入られてパソコンを集中的に教わりました。その方の影響か今でも音楽はパソコンにインストールした物しか聞きません。

その後2年程してから“メール便の仕事”が始まります。クロネコヤマトの支店である“サテライト”はこの康洋ビルに移転する前の建物の一階にあったので、仕事はやりやすかったです。一緒にやった利用者もそうですが、なんとと言っても忘れられないのが最初のジョブコーチだった“荒木田さん”です。初めて頂いた仕事だったのでほかの職員もついて来てくれたのですが、配達エリアが4丁目から3丁目に移った時や、大宮ソニックシティでの報告会でも荒木田さんが一緒でした。仕事面では冬も辛かったです。夏の暑さは強烈で職員の“松田さん”から良く水分補給をするように言われました。始めは二、三十通しか配れなかったのが、慣れて百通以上に増えた時は楽しかったです。

勿論メール便ばかりやってきた訳ではありません。看板清掃等もしました。メンバーの“Sさん”と組んで良くやりました。Sさんを一言で云う

と“熱血漢”と言ったところですか、フザケタ事を言うと良く怒られました。それともう一人当時ボランティアだった“小田さん”のパソコンの教え方も上手でした。先述した荒木田さんからも沢山の事を教わりましたし、職員を始め皆さんのスキルが高いと思います。ここで一言“卓球の女神、石丸さん”に出会った事も大きな出来事でした。

その後の事は“クリスマスコンサート”でも報告したようにメール便を辞めると同時位に母が入院し、母が退院したと思ったら一年程して今は父が入院しています。

思うに母という人は“四季の歌”にあるように心の広い人なのだと思います。金子先生然り、松田さん、母も私を許して受け入れてくれました。職員を始め利用者の皆さんにも感謝しています。有難うございました。





## 20周年記念事業



### 【20周年記念誌完成！】

約7ヶ月の時間を掛けて、この小冊子は出来上がりました。編集から印刷、製本まで総べて利用者、職員の手造りです。総勢6名の編集委員が写真・年表グループ、投稿・投書グループの2つに分かれ、途中、様々なエピソードに突き当たりながら、遂に完成の日を觀ました。内容は、総べて利用者、職員、関係者の皆様のオフィス クローバーの歩みに寄せた生の声の結晶です。オフィス クローバーの20年の歩みの総べてがこの小冊子の中に込められて居ます。どうぞ手に取って御覽になって下さい。

（淑行）



### 【クリスマスミニコンサート開催♪】

平成27年12月12日、今回のクリスマスミニコンサートには特別な思いがこみあげてきました。オフィス クローバー20周年と永年通所者表彰があり私もその永年通所者の1人です。私には8人の先輩がいます。先輩達と表彰されて嬉しくもあり何ともいえない気持ちになりました。先輩ひとりひとりにオフィス クローバーとの歴史があるように私にも歴史があって、その事を改めてふりかえる事が出来て良かったと思います。受賞者代表で謝辞を読みました。読み終わった時、お客様から拍手、良かったとの言葉があって自信になりました。また、アラムニー音楽お届け便の演奏は毎回感動させられますがよりいっそう感動しました。

（N. T）



## 理事会・評議員会報告

平成28年1月21日、平成27年度（社福）結の会第3回理事会・評議員会を開催しました。始めに平成27年9月から平成28年1月にあった事業報告（定期面談、日帰り旅行、20周年記念事業など）を行い、その後、以下の議案について審議しました。1. 経理規程の改訂について、2. 定款細則の改訂について。議案は全会一致で承認されました。

（松田）

# 読み物

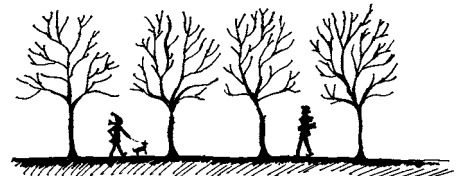


## 『心の病との付き合い方』

雪ねこ

わたしは冬が好きです。活動的になり、新しい事に挑戦してみたいくなるのも、ちょうどこの頃が多いです。ところがいつからか、たぶん病気になってから、冬が近づくと心のバランスをくずし易くなってきてしまいました。

最初入院を勧められたのも冬でした。二度目に入院したのも冬でした。本来活発に動いていた冬に体調を悪くするようになってしまったのです。スタッフさんやドクターとそんな話をするうちに、ひとつのパターンが見えてきました。それは、苦手な季節は体調を気づかえるのに、冬が近づくと油断して活発になり、次第にソワソワと予定で手帳を埋めてしまいたくなる事でした。病気になる前はそれらをこなせていたけれど、今では相当な負荷になっていたのです。それに気づくまでは、師走の忙しさで活発に動いて体調を悪くする、のくり返しでした。ようやくそれに気づき、スタッフの方達に相談しながら活動を調整できるようになった今年は、今迄よりも「元気そうだね」と言われるようになりました。活動量を自分の体力に合わせてコントロールすることはとても大切で、焦る必要はないのだなと実感しています。今でも手帳の空欄が気になったり、ソワソワする時はあるけれど、少し冷静になって考えたり相談もできるようになりました。自分の許容量を知ることができて良かったです。

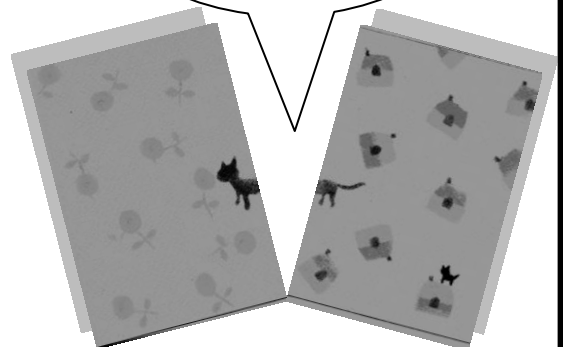
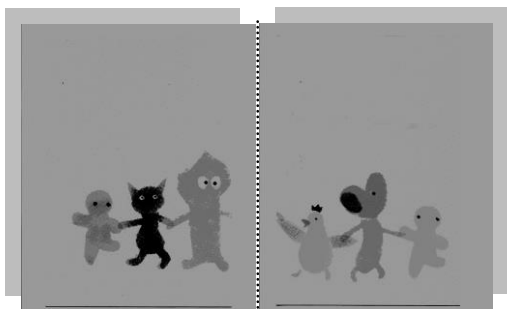


### 新作!! ペア柄手漉きはがき ♪♪

新柄ハガキの登場です!!今回は2枚のハガキを合わせると1つの絵になります。全部で4種類。ふらっと新宿四谷店等で販売中です!!

2枚(別柄) ¥100

つなげるとねこになります!!



《投稿作品》

『生きる』

ふと風に尋ねてみた

わたしはどうして誕れて来たのかと

風は何も語らない

舞う落ち葉はわたしの肌を撫でる

過去は過去

時とは過ぎ去ってゆくもの

そしてわたしも過ぎ去ってゆくもの

しかし残るのは愛という足跡

そう、風はそう語り掛けて呉れたのだ

「あなたの生まれて来たのは

決して無駄ではないのですよ………」と

優しい声でもって——

淑行



《主な予定》

- 3月 看板清掃
  - 3月12日 落合第一地域センター祭参加
  - 3月17日 理事会・評議員会
  - 4月上旬 花見
- ※毎月25日は工賃日です。印鑑をお忘れなく!

《編集後記》

私は、20周年記念誌の編集を終えて、ニュース編集委員会に帰って来ました。自分には、やはりこういう仕事が向いているんだと思います。そして、広く精神障害の理解と認識をこの仕事を通じて発信していきたいと思うので、今年も宜しくお願いします。  
(近藤)

オフィス クローバー 〒169-0075 新宿区高田馬場 3-18-25 第1康洋ビル7階 TEL 03-3365-4177 FAX 03-3365-4178 E-mail yuinokai@axel.ocn.ne.jp http://yuinokai-clover.com/	編集：淑行・近藤・小畑 和泉・松田・渡邊 イラスト：淑行 入力・印刷・発送： オフィス クローバー	発行所 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルトウーラ祖師谷 102号室 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価 150円
---	---	---